

自まんのおじいちゃん

鈴木 望翔

おじいちゃんには、いつもぼくの心が全部見られているようだ。こまっている時、楽しい時、うれしい時、どんな時もそばにいて、ぼくの話を開いてくれる。友達のように二緒に遊んでくれる。宿題を見てくれる時は、ちよっとこわい。

「字が汚い」と何度もおこられる。それに、言うことを聞かないと強くしかられる。それでもぼくは、おじいちゃんのことを大好きだ。

下校中に雨がふっていると、心が通じたかのように、何も連らくしなくてもむかえにきてくれる。部活に向かう時やじゆくに行く時など「今日は一人でいくのはいやだな。」と心の中で思っていると、「ほら、行くぞ。」とすかさず送ってくれる。

昆虫採集や野菜さい培に自然かんさつなどぼくがきょう味をもつ物をおじいちゃんは全部かえてくれる。

おじいちゃんは、ぼくの一番そばにいて、ぼくだけを見ていてくれる、それが当たり前だと思っていた。

しかし、最近大好きなおじいちゃんが半分こになってしまった。ぼくに弟ができたからだ。

ぼくが、学校から帰ると弟はおじいちゃんのひざの上にはちよこんとすわっている。そこはぼくのポジシヨンなのに……と悲しい気持ちになる。大好きなおじいちゃんを弟に全部

とられてしまったように感じるからだ。

ぼくは、おじいちゃんと二緒にいる時間が何よりも楽しい。今まで口に出して言ったことは無かったけれど、ぼくはおじいちゃんのことを、だれにも負けないくらい本当に大好きなんだ。

でも、おじいちゃんは、ちゃんと二人だけのひみつの時間を作ってくれる。弟がねている時間だ。その時がゆいゆいおじいちゃんをひとりじめして遊べる時間だ。しょうぎや人生ゲームをしたり、二人でお買い物に行ったり、このひとときは、まるで天国のようだ。

でも、楽しい時間はあつという間に終わってしまう。弟が目覚ますと、また、おじいちゃんを全部とられてしまう。

それでも、おじいちゃんがなんとかしてぼくと二人だけの時間を作ってくれることがとてもうれしい。

今、おじいちゃんに伝えたい。

おじいちゃん、いつも一緒にいてくれてありがとう。ぼくは、おじいちゃんのことを弟にもだれにも負けないくらい大好きだよ。二人のひみつの時間、これからもいっぱい楽しいことして遊ぼうね。ちよっとさみしいけれどぼくのかわいい弟だから半分こでもがまんでやるよ。これからも、弟とぼくの大好きなおじいちゃんできてね。